

文楽鑑賞へ行こう

菅原伝授手習鑑

寺子屋・寺心の技 6. 7

菅原道真と、道真の政敵藤原経房に
これ分かれ仕える三の弟(梅丸・
松丸・梅丸)の運命は？



ROADSHOW



文楽鑑賞!

菅原伝授手習鑑

段の段
寺入り
寺子屋



すか ゆら じん じゅ びらい かたじけなく



三兄弟の名前の由来は、道真が詠んだとされる
梅は飛田村は枯るる世の中に
向とて松のつれなるらんからきんぎょよ!
あとこれ4人の合作なんだってさ

あらすじ
時は平家。齋世親王と道真の娘は密かな恋仲。
しかし、時平の陰謀により二人の逢瀬を謀反に仕立てられ
道真は大宰府へ流罪となる。三つ子の梅王丸・松王丸
梅丸は道真への義理と各々の立場主人とに扶まれ苦悩の身
時の流れに巻き込まれながらそれぞれを追を歩んでいく

- ★恋から始まる悲劇
- ★平安の話なのに江戸要素つよい
- ★別々の人に仕える三兄弟の苦悩、忠義
- ★このころの人も大変だなあ

みるばいし

死おりの段

<p>なん! 身代かりにした子は松王丸の息子だぞ</p> <p>大恩のある道真公に恩を返すためあらかじめ我が子を入学させたのです」 「父国を果てたおでかた」</p> <p>なん! やん! せん! せん!</p>	<p>世かゆる源蔵</p> <p>小太郎の母がお迎えに来る</p>	<p>源蔵の管む寺子屋へ</p> <p>おねがいします</p> <p>小太郎です</p> <p>するとそこへ</p>	<p>時平の謀略により道真は大宰府へ</p> <p>左遷おつ</p> <p>源蔵</p>
<p>なん! やん! せん! せん!</p>	<p>菅秀才の身替りお彼に立てておたか</p>	<p>最悪の府のある新入生</p> <p>小太郎を身代かり</p> <p>せれま物は宮仕え</p> <p>意を決した源蔵は</p>	<p>道真の子菅秀才をかくまっていた源蔵</p> <p>菅秀才</p> <p>かこまてんたろ</p> <p>首もてい</p> <p>源蔵</p>
<p>めしたし</p>	<p>ましか</p> <p>そこ松王丸が現る</p> <p>あらかじめつらつら入国させたのだ</p>	<p>ましか</p> <p>源蔵</p> <p>松</p> <p>源蔵</p>	<p>源蔵は菅秀才の身代かりを探すことに</p> <p>寺子屋</p> <p>山家直子</p> <p>源蔵</p>